ケ5
68
40

宮城県図書館

自大永元年辛巳至天正十四年丙戌六十年

大永元年辛巳　人王百五代　後柏原院御在位二十一年也

一　三月廿二日主上ヒソカニ御出家遊仁親王の御子ニ成給ふ家督被遂入道御年二十余年ゝ御ヒ給ふ故大礼延引ス

△　此時三条殿宣房院入道のこゝろひろく山門一位禅一向宗ハ願寺ゝ門徒ゝ暴をしたゝ

△　武田信玄生る父信虎二十八歳二月廿三日

神の御子福濃（弾正少弼）甲州へ乱入合戦し福濃武信
虎へ撃捕刑限逆せゆへ信玄の名越勝千代
と称せり

△三月廿五日将軍源義稙京を出て淡路へ渡し
のゆへ蟄居を見て清の云方と居り
△細川高國ゆへ法住院義澄の子義
晴を擁立し奉り上洛し六月に入洛して七月に従
位下し叙せ十一月義晴四五位下に叙し右馬
頭に任ず十二月義晴元服歳十一同月に義稙
官職を停め義晴征夷大将軍に任ず高國
及領と為る○二年癸未事故略す仮源氏

大永三年 癸未

一四月前内大将軍大納言源義稙卿桂川を渡国桂川を
下り京都へ出玄年又十八ヶ人の死を出す
別て数年と称す高國内々せり仮法法い細川が
仇敵なり義稙い細川三好と同恨わまばを除
殺いづく
△細川高國高祖と大明（ゆうりん）家京郷
者と使ふとて京郷と元来唐人なり日本人
源り細川改元よりて法住院殿へも留しを
使者と為り大明へ上り海路し日本法住
上高國に法ひそるに迎付大内介義興も同

防ぎ高松と大明へ渡し宗設とのべる使を
さし寧波府へつかはす素卿と宗設と兵仗を
ふるひ設へ素卿ようやくにして宗設を
殺しと素卿ようやくにして宗設を殺して
はれやうやくにして寧波府へ逃げ大明へ
殺して遊楊をとりこめ素卿逃れて
捕へて禁獄に宗設い事故なくこれより
日本の海賊年々寧波府乃至遊楊を
大永六年丙戌　傾城　後奈良院
一四月廿九日三十一歳にして陸奥国白川に湯右大臣

種家より将軍を寧相中将源義晴管領細
川高国へ道案内なり
△将軍敗北
大永七年丁亥
一三好長慶へ乃海雲法師より和泉の
堺へ引き京へ攻へ細川高国と桂川にて合戦
高国敗北
△越前の朝倉孝景京へ出て三好と合戦三好
敗軍
享禄元年戊子
一三好宗と攻て繚乱ようの将軍源義晴宗と

あるく別へ到(ヨモムキ)板(フク)木民部少輔種綱(タネツナ)が許に居(ヲ)て板木を作(ツク)るまゝ一族(ワウ)なり

植綱(タネツナ)しるく其(ソノ)ことを板木を作(ツク)るまゝ一族なり

辛祿二年　庚寅

一　四月勅使大炊(オヽイ)記清原良雄(ヨシヲ)板木(ハンモク)に到(ヨモム)く義晴(ヨシハル)

大納言より但(ただし)後二位(ゴニイ)より叡(エイ)て時の内二十歳

△　越(コシ)後の国長尾為景(ナガヲカケ)子(ノ)ことを板輝虎(テルトラ)

△　相(ソウ)州小田原(オダハラ)の氏康(ウヂヤス)歳十六初陣(ウヒヂン)に武州の府

中へ出(イデ)て上杉憲政(ノリマサ)二十七の軍(イクサ)より戦ひをじむ

△　辛祿四年　辛卯

一　六月三好海雲(カイウン)が故細川澄元(スミモト)が子晴元(ハルモト)年十三

軍(イクサ)をかるゝと大物(オホモノ)うして細川(ホソカワ)の国と尼崎(アマガサキ)天王寺

の間(アヒダ)にて合戦(カッセン)の国大(オホ)に敗(ヤブ)れて敗(ヤブ)れ出(イデ)たる三

好が勝(カツ)に乗(ノ)て追(オフ)て国(クニ)が民家に迫(セマ)て大なる

壺の内へ引(ヒ)くゝし居(イル)て敵を待(マ)て国

が驚(オドロ)く淀(ヨド)村といふのわり勇力(ユウリキ)に秀(ヒイ)たる故軍

の時敵二人を右(ウ)に掛(カケ)て入水(ジユスイ)を霊化(レイケ)して解(カヒ)

とある淀村解(カヒ)といふ是(コレ)なりくて京中(キヤウチウ)を去

ぬるゝ

天文元年　壬辰

一　義晴(ヨシハル)は京より近江(オウミ)に在(ヲ)て細川(ホソカワ)右京大夫晴元(ハルモト)管領(カンレイ)

但(ただし)三好海雲(カイウン)威(イキホヒ)を振(フル)ふ晴元と不和(フワ)なりこれ

によりて海雲和泉(イヅミ)の堺(サカイ)に宿(ヤド)をとる

天文二年癸巳

一信玄（勝千世とも）十二歳なりし父信虎へ逆らひ信虎大に怒りくられし父子不和なり此年信玄蛤の貝にてくく人数乃積りを考へる

△上杉憲政家老長尾景虎（後井侯右近将監）間道にて小田原へ向ふ

天文三年甲午

一尾州織田上総介信長父子の平氏織田彈正忠信秀死去

天文四年乙未

一四月義晴内書を以て会者京へ授て淡路へ奥へ

△上杉憲政家老長尾景虎（後井侯右近将監）間道にて小田原へ向ふ

天文五年丙申

一三月武田信玄元服年十六義晴諱の字を賜ふ武田大膳大夫晴信と号す

△七月叡山の衆徒群れ京中へ乱入て放火し日蓮堂を破討て洛中を焼亡

△十二月廿六日武田晴信年十六初陣して信州海野口の城を攻落す

△上杉憲政小泉氏康へ奥へ向ふ士上州平井へ移る

△小豫氏康年二十三上杉扇谷の領武州川越

△の城と云ふ

天文七年戊戌

一相州小田原北条氏綱ゟ子氏康八千代兵と成武州川越ノ城下ニ攻ル山内上杉憲政府谷上杉朝定ハ武州八方の軍と和合戦して大ニ勝利と成ル

△定ハ討ル憲政ハ上野へ逃ル去ル上杉ハ上野へ

△ゟ攻ル北条氏康ハ駿ヲ右ノ河ノ所ニ晴氏

氏康妹婚ゟ成て北条家ゟ婿ヲ晴氏ゲ一

族親縁と成ル喜連川ニ居ル

△今年北条氏康の子氏政今川義元子氏真武

田晴信子義信三人同歳ゟ成ル

△武田信虎年四十又駿河へ流罪ヲ今川義元ハ聟

ゟ成ル

△七月十九日武田晴信甲州藤崎ゟ小笠原長

財弾正忠村上義清信濃の小笠原四郎と合

戦して大ニ勝利と成ル

一天文八年己亥

一六月廿日甲州若御子ゟ武田晴信ハ板垣

八百の兵と成て駿河へ流罪

△と成ル同廿二日武田ハ板垣七百余ノ軍士と成ル

甲州甚ケ原ゟ小笠原

△晴信ハ酒ゟ成て和歌ヲ詠ル

△て秋と屋とをに老居板垣が孫云と宮て十一月
朝日よりこれを改る
△六月三好が党ハ類焼起京都、初総将軍義晴八
郎の墨りよ立く相才植綱供奉鞍を鞘を
天文九年庚子
一天下大疫人多く死を
△四月晦日武田晴信が従列海尾の城と村上義清
が軍士有くかとも晴信板垣の合戦より利を得
敵を逃たるる○同二月十八日晴信玄甲列てわる
由より於く村上ら義と和軍ようく討死且敵を
△出雲の国尼子晴久と安芸右田の城を毛利

元就と合戦ある尼子ハ作ら来が一族ようそ作ら
出雲の国より注を出て國つくしてをおを打
ちくるを坂より元就も援下ちりしら晴久
ようくうられ不和ようくしりく大内の義隆
へちくぶ晴久賂て敵方の勝りて右田の城沈
△図む大内ら家者陶尾張ら晴賢加勝乃たの
よりあく財陳尼子攻軍出国を
天文十年辛丑
物軍義晴坂本へ出陳作く其宮頼ホたくぶ
ひあくまつる
△甲州信州ら敵も勢方も国の仕垂のこりく合

殺いかり　武田方老臣の海津に海賊若村田蔵
主を称するごとくなり　於て蔵を乃足
迴合の
長尾家庶流年より初て来年中六十六歩の
信と連て関八州と回る
△武田晴信二男龍蘭生る
天文十一年壬寅
一初の三月九日信州松代の小笠原長時同国須坂
頼義同主義の国葛尾村に義清四大和と
武田晴信甲州信州境沢に於て合戦　晴信
大に勝利　十〇同月廿日甲信境平沢に

て村上義清の場二千余と晴信戦ひて利を得〇
信州尾川坂城頼義の城と攻取老板垣と城
代に成て〇十月廿三日大門峠に於て村上小笠原
共に晴信勝利〇十二月十日信
州作久郡相木と云　十三年春より内通し軍
州へ来て晴信に謁す
△
蔵主大内義隆　国軍場に率て出雲へ発向
子晴久が富田の城と攻陶尾張守晴賢と戦利
元就も城つくして又月大内場敗軍
元就坂城に移り居て遠てわたりに義隆
子なるをして士作一条房の子と書て彩かと

称して伐ゝ討れ給へ元能時く国防の山に
へ籠く義隆ゝ渇て長老陶晴賢が逆心わりて
義隆と不和なるべきをさとりて在藝右田の
へ向て出て変をとうてひ給をり
△八月強河の国司今川義元を引のぶを打ちてぐ
三河へ出張し尾張の織田弾正忠信秀と小
豆坂ゝ戦て義元敗れ
△十二月廿六日源家康三河国岩津の城ゝて誕生
清和天皇二十六代の苗裔八幡太郎義家の嫡
孫賜左馬頭将軍新田大炊助義重の男得川
義季ゝより十六代賜大納言廣忠ゝあり母は伝

通院殿と号て水野右衛門大夫忠政の娘也
天文十二年　癸卯
一今年武田晴信軍法の仮定る○正月山本勘助
強河ゝより甲州へ来る○正月信州相木市左の
人質甲府へ来る○正月信州相木市左の
△長尾景虎入道年十四自家虎とかのる○七月家
虎婚長尾正景の妹ゝ七千の郷と景虎二千の
ゝ代勝正景敗れ
△天文十三年　甲辰
一二月十日晴信信州へ義出て諏訪頼茂和と結ぶ
ゝ晴信二月甲府へ帰て諏訪頼茂甲府へ来て

得たる三度目に敵害○十一月中旬晴信信州へ
出陣敵城九城却十二月十六日帰陣

△寛康三歳丁廣忠の夢想

神くらのあるかさう秀世と為るべしと
夢のうちに法は千世あけの松
千年をへしくみ秀世の月は長家と

天文十四年乙巳

一二月武田晴信妻三歳武田信繁板垣信形
諏訪へ出陣○六月十三日信形病死○七月十三日信形
家臣板垣信方晴信に妻老板垣

伊奈の士の捨て為りしの○諏訪頼重娘武田晴
信妻○六月十六日晴信山本勘介と軍
問答の為諏訪法像あり て用ゐ

△今年越後の家尾婚姻正家年二十九にて
親ひ負家尾より幕下に属す

天文十五年丙午

一細川晴元弟に三郎が一類板列に出張し京都
忍にして将軍義晴の子義藤十一歳にて元
服し従五位下に叙せ十二月十九日吉の祥を祈
下り給ふとなん

△武田晴頼生る母は諏訪頼重の娘なり○晴信

縱良弧跡八兎糸而入畫鞭之空尋以表雖之業達士不進以廢河去

爲不爲利乘聖名而以也之

執繭

△織田信長十二家臣尾州清洲城より於て行と雖
ども其合戦のもつとも勇方の者
より代初と先より称して信長多くなり
△
家康岩濱と申す所ハ織州小淵と遠州堀川城
信長より戸田三郎奪て尾州ふつまとの城
を任秀吉より送る甚麗敷として永楽銭八百
疋と戸田より渡す
△
二月廿一日武田晴信信濃国諏訪山城
信州伊奈郡へ攻入三ケ所の城を攻
郡が治郡代り小笠原山と指置○同月九日村上
義清妻老後布施柴宮寺孫城代樂晴信

妻老板垣後利原美濃あれ上野板垣ケ大勢と
と業宮ハ諏訪士逃紛尾と原美濃ハ武田より
ふりて敵利と考ふ○四月十二日晴信諏訪へ
小笠原出府 并伝ふ者ハ所地へ種田働を
して六月二日西孫○海を宮ふ田信と云と
ふと山中動ハ紛ふ上ふりて晴信六月中上又
下又ケ原の武田と宮ふ○八月十一日晴信信州
久郡志賀城のつ城を笠原新六郎と
うち取小室上野○同月廿四日晴信と義清
上田原上一州小又戦迫合つゆ上義清敗北
逃入晴信二ケ所疵とりひり妻老板垣うち死

○十月十六日晴信長秋山伯耆守と出合四十二人討死三千貫の地と成る○同十八日同長尾利茂義多田淡路守と戦ふ下ノ城信濃に立籠りて末首小笠原と押寄小笠原ハ敗北松代へ多田勢九十三人討捕○同十九日武田と北尾京虎信州海野平に於て合戦京虎人数二百六十三人武田方百三十人引揚長尾ハ人数二百六十三人武田方百三十一人うち死○同廿一日武田長浜利小笠山峠に於て上州松枝の兵と出合勝利と成る三十三人討死○同十九日甲府諸座火災○信州川中島郡の士高坂仁科海野瀬場ハ人質と成て

晴信十一月十八日西條○晴信上杉と寺川に論よりて又十又ケ条の式目より二ケ条追加て

○十一月武田被官武田志村ハ新わり

天文十七年戊申

一六月義晴義藤坂本より西洛晴元管領より

△又月七日晴信甲府と立て信濃郡へ坂入新城

二ツ破却る○六月四日より同十六日まで京虎

晴信信州小縣郡陣晴信七月朔日小縣と立て

上州松枝へ大物見と打て七月七日甲府へ帰る○八

月八日晴信川中島へ出張村上勢合戦次第前回に

成へ又八十月十日西條

△八月長尾景虎越中へ出張

天文十八年 己酉 二月大

一二月六日三河国岩瀬城を廣忠逝去家康開城

尾州に

△三月十九日今川義元の首将林陸寺宮内長老

と羽柴左ふ衛中将秀吉能登国三の軍士と率く

三河安城と攻大久保忠勝と設兵法を

合せ城を織田三郎信長信長の父信秀かくこと守て

禦ふ之対し甲多年八郎忠吉岩瀬城を失し

中て死せしこと三宮寺の兵多く死傷せし故

に吉欲奉紙を引く岩瀬の城に入る○同十一

同八日義元の兵安城を攻て城を織田三郎信長攻て

城に入○同九日織田信長 家康と謀く三郎信長

と和へ三ヶ条を安城を攻る 尾州へ走る家康い

名護屋に引籠る

△今年尾州織田信秀病る 信長父 信秀死去

△三月三河新城を長家と三郎家康と相別れ

渥美郡のくすわり細川晴元ひとへ与ふ三と則長

まで長家を怨て家康に

家三河の城に入る細川晴元い三宅の城に入る

作く未宮祀も晴元に力と合せ

長家を攻細川を国ゲ江郎氏細と引て大和

河内の堺とたゝかひて中務の城よりも出さるゝ
者雲ゞ孫海雲ゞ子なり○六月六日二位殿と
て江口より出張出る十河民部一存と同く三
宅右馬之助と戸切左近将監とを打おけ出べきふこゝに討死し
晴元ハ城に籠りて治作こゝ宣頼ら子孫
京大夫義賢三万余人勝ちくを江と出て京
中より除しけるが晴元ゞ敗軍をもよをして
逃ふるそ京の将軍義晴幸将軍義晴幸
細川晴元ハ下京と落て坂本より都へ
三好長慶へ治しに巡見して摂州へ向ふ松永弾
正久秀と京都の留守をして○十二月義晴帰洛

△冨十二日晴信上ノ御陣へ出張同廿二日まで
伊奈ふ木曽松本三方へ人遣保科弾正忠信濃
木曽ゆくハ高坂弾正忠越後勢合敵十一
人討死松本ゆくハ敵七十人ばかり○八月
朔日より同八日まで晴信京庵海野平対陣
○九月二日上州こてゝと合戦敵ハ上州上杉の軍
廿九日より晴信勝利○同日晴信安中へ出張小笠
原下ノ御陣へ出る告ゝよりて同七日彼表へ発
向長尾景虎晴信十月三日甲斐へ帰る

△長尾景虎越中能登へ出張

天文十九年 庚戌

一二月細川晴元作ゝ来定頼治部少輔元盛の聚
築く○三月義晴彩色うつんとて仮屋を
元大山中より皆悉面不例にて帰京ありて
○五月四日の頃夷大将軍大納言兼右大将源
義晴公列元大山中にて逝去年四十一万松院
と号す○義晴遺骸の賀泉寺に
居る晴元定頼義賢義堅○十一月三好長慶
按列より上洛東山殿史遷で大津松本に
晴元ホゞ家人御ゝれ来る
△三月晴信上列松枝へ出張す若小笠原下のもとに
へ移る故に晴信同廿一日彼地へ出れば敵退散

○四月晴信拾樓原出張又月朔日京虎信列
へ出ると敵し同十一日より晴信と戦ひ敵
深十二日卯刻京虎退散京虎熱中能登へ
敗北晴信それへ同付て長越士六月中旬
迄○九月信列法福寺合戦敵小笠原長時
より晴信勝利と成即松本へ凱入の京虎
出張海野平に於て十月十日まで晴信と対
陣を相せり合わり同十一日京虎陣と挑戦
に長尾正京法福寺○法福寺合戦敵多
の拾樓原へ七〇人士大将の内板垣信方二百虎病
死○九月九日今川義元より使を晴信上

別紙白石の筆やうよりの書氏康頼りてかり○晴信迫切の士金丸伯耆春日
三人板垣が指揮東不久条の虎寅閑庵十
一月十七日被討ゆり物

天文廿年 辛亥

一三月三好長慶洛中地子掌のるゆと下知して○
七月晴元が郎従和田国方よりの長慶押よ
せ戦ひ敗北

△二月十二日申刻晴信判鬢使を以て年三
十一○二月廿八日晴信妻老板垣孫次郎長尾景
虎と内通わるくあれて被討郡代設楽を誅し

はかりよ長坂右衛門尉居を○二月より又月に到
晴信伝ふ木曽松代桂田働又八月より十月に
到て右同所前田働

△長尾景虎越中に於て戦ひ利を得て国法の改
り明らかなるより晴信と当年対陣なり

△八月大内介義隆が妻老陶尾張守晴賢謀叛
して義隆が居城山口へ寄せ義隆敗軍し
石見の右見山頼と云のもんそく義隆陶
が会盟なり○九月朔日義隆長門の深川大
寧寺にて自害年四十又北条氏利夫高豊本以
下数十人一所に死に二条前の関白尹房

三条西実隆の日記に頼朝の中将家豊家卿
の長男と記す義澄が婿となりて同く宮を
ら中納言藤原基親卿督藤原親世と一
所なりけるが賢と刺して逃去る陶晴賢は芸
くもり物語わるのへる陶出雲守と使として
豊後の大友宗麟が弟三郎義長と同陶山兵
庫助平て分隠とつゝめ晴賢已が力なるまゝに相
分利賢して全善と号せ義澄うゝまゝ相
大明勘合の印判失て日本大明渡海出る時
命ゝり南蛮の高紙まゝく那蘇の宗麟紀
きり大友宗麟はゝりゝ気ゝゝゝん

△相州小弟氏康上杉平井の城を攻て落て上杉
憲政越後へ逃れ憲政が子龍若いまだ稚れて家
せられ憲政い越後へ落て長尾景虎と号と上
杉の氏姓ゝ関東管領の號と景虎ゝゆづり
小弟と対て恥とゝ思ゝんと移ゝ関東大小氏
康ゝ屈せ強れ共ゝ時今川義元い強勢ゝわり
武田信玄甲斐ゝわり長尾景虎い越後ゝ
わり毒虫ゝ里見ゝ房ゝ作作義重い常陸ゝ
墓ゝ名聞ゝ名誉ゝ命潔ゝわり関東の合戦や
ひとゝ方ゝ越前ゝ朝倉ゝ能登ゝ畠山
有長ゝ出羽ゝ出羽決者わり長張ゝ織田信長

ゆり伊勢より西国目ハ留おりをいよいよ信こ末
定頼義貴おりの武内南海より三好松永が一族
播磨海賊英池より赤松が余類宇喜多が一族
中国より陶全善毛利元就尼子晴久吉見正
頼ら淀和軍勢を引よい大友ら豫肥筑より龍
造寺隆信おり薩摩大隅より島津義久おり
是ハ国和分て一日も静なしす

天文廿一年壬子

一正月将軍源義藤ハ板倉ら淀細川晴元を
制禁して堺ニ居ル○二月細川氏綱
等より氏ハ分別ら上洛三好長慶同

乃細川氏綱ハ右京大夫と号し管領ハ右ら以
と号して代く管領の名と称ス○氏細川を
裏て三好遊より淀中摂内南海の諸を親て指別
より住て三好ら安人松永弾正久秀ら上京を威
三好ら上ル

△
二月信別河田より伝云京院合戦京院先ヶ
大将正家大夫ら討死ス伝云先ハ山田海中
討死栗原右馬ハ山田右京ハ馬ハ国して
死て○八月十三日小笠原七郎ら要害注別前
伊原の城と信云攻て十月甲別へ移ら○板垣除
次郎撃居○去月源氏帝百人十騎の指より

△南春長尾景虎義を上杉平井城(武蔵)攻
然三月より小泉氏康と景虎とのひとしき
むる○景虎判鑓傳(後)と号す年廿二

天文廿二年 癸丑

一七月将軍源義藤細川晴元とゆるして海浜を
む○八月三好筑前守長慶二万人と率て(浦)
義藤并に晴元冊波(波)為十余日城攻て海浜
△又月六日信州桔梗原にて合戦小笠原長時ガ長
と武田信玄六百七十九人打死豊田又一戦に長
時ガ兵千四百九十三人討捕大に敗軍して石坂ふ
ゝ(脇)ヘ同十日信玄兵を数して長時ガ石坂(城)

加こむ長尾景虎小泉の城京弥(陸)○八月川中島
の内信州犀川山伏動かり絶と張て海津の城
と号す城代より小山田備中二の郭に入市川梅
市原ら兵を率て○十月真田弾正忠信州小室
に城代○信玄足軽大将原昌胤ガ(ガ)信州に
ちらく相別小田原へ立退

天文二十三年 甲寅

一二月義藤名を義輝と改

△二月中旬小泉今川不和後に張河ゆり平列(桜)
兵を率て信玄小張笛士大炎桜ゆに於て氏康
人数百九十一人信玄討死 則上二家縁者の為

法わりて退散原美法小笠幕下に屬し出ち
まの戰場へ出同二月甲州へ向系〇六月十日に
至同十二日まで信州信濃國安并に諏訪
て信玄逼信對陣信玄幕下信州先方の士
四人逼信と内通ゆへ同廿八日諸士〇八月廿日
信玄本陣へ出張信州士卒陽洛系〇八月二日
信州更級の諸信玄方師道の遺孫城所
らそひ所わり〇翌年仁科五郎盛信信玄
の子なり母へ仲川とり
△
慶康元年月葛藤代又病の時勝頼の見續り
二十歳十三歳

弘治元年乙卯

一二月七日武田信玄甲府を發し出陣の由で
系に陣し同廿二日切ん嶽の城を圍む義信
和と信信玄婚に迫して十一月甲州へ歸り〇閏
又日逼信川中島出張信玄六日に歸陣と立て逼
信と又日對陣〇甲州一蓮寺に於て和陽と講
を討る武田方に利なし
△
逼信上州へ出張氏康と對陣七月八又越中へ出
張なり
△十一月安藝の毛利元就俄に周防の全姜と功
てそそくひ勝全姜自害大友義長ハ長門に

て月宮元能と全基年く合戦し今年元能つゐに長門国阿武と討平ぐを嫡子隆元其次吉川元春を次に小早川隆景皆軍事に達せり元能はそこら伯州一国張伯耆の守毛田垂家和と元よりして伯州隆元と国境に留て毛利の大変と押へて元能并に元春隆景は出雲へ発向し尼子晴久と合戦し年月を送せり

弘治二年　丙辰

一七月大明の使臣鄭舜功来り書を送り京都へ指渡業の海賊大明の急憂と倭寇を

防ぐと所の無礼を責とつらさる

△遂庚今年十又弦月に於く首服を加へ元信と名を三刑部丞へ改め義元へ頻に与せく思海なり山田新右衛門と右京亮元信は二の郭に居○二月廿日松平右京亮義春（元信の名代とり）元信の名代と二刑日近の城と攻城を奥平久兵衛と合戦ひ是右京亮討死○今年二刑福岩に城築酒井左衛門尉忠次渡辺八右衛門大久保次右衛門右衛門尉大久保次右衛門尉忠佐鳥居彦右衛門尉忠政牧浦八郎大郎大原右近右衛門尉忠改安倍四郎大郎忠改と共に守りそ織田信長と桶狭間合戦に義元を討ち

して元と攻るに者ものを孫数十人討殺
重大なる罪因もなく屬て尾州へ還る○今年清
康逝去不審○浙右ふ刑部殿名とつ者やまこいと元
信姫聚

△三月朔日信玄伊奈ふへ出張ゆるす遠江川中島出張
故信玄も故所に逝去又月朔日まなぐ討陣○
六月中旬信玄伊奈ふへ出張故郡の士石沢屬を
討ゆるして秋山伯耆守信濃代ら伊奈ふ士
万西市郎千久会る二百騎秋山も兵又十騎
合二百又十騎とゆるしむ○信玄家老小山田
備中信州おやまら濃代を沿海濃濃代表日

△彈正忠ゆり伊奈ふ士秋山が相備の外と山縣三郎兵衛
が相備より屬て

△六月中旬ゆり七月ゆるく遠信氏康上州ゆ討陣

弘治三年　丁巳

一正月七日小田原ゆり甲府へ使者ゆく信玄上州へ
乱入希ふのゆり因て四月九日上州三田庄ゆく
西上州の士十騎と信玄大ゆ戰ひ勝ゆく亜ふ
義輪へ攻ゆる同十二日遠信川中島出張
より又月来まして討陣八月ゆり十月ゆるく上州
義輪へ信玄出陣濃を永理信濃ゆ田原へ不動
ゆり燒働て敗陣○今年者加賀ゆ妖術の

ものわらしと伝云潛り数を

△今年源川元信名を元康と改

永禄元年 戊午 百七十代 正親町院

一三好松永ら乱りましまして将軍源義輝并に細川晴元松永へ没落○九月義輝并に晴元伝守らり進發し勝軍山の城に籠る松永弾正と和川にて合戦○十一月三好長慶と和睦義輝い洛洛晴元と伊勢川に因へ蟄居ち〻元年と弾て記を

△伝長篠書と云ふ今川の士戸部彩右衛門と数を

△二月徳信ら伝云へ和と元又月十又日義元川と嘯ゑ物刑部対面徳信信云が不礼と怨て又戦を起し又月ら用六月まで対陣○四月伝云実武田左馬助九十九件の書を作てよわ〻

△元康母子誕生母を駿河刑部姫つ〻山○元康後別ら岩滑ら伝云と云別寺殿ら勧て駿を移来日向ら畏て石城と云て還り又同ゑ底既筆母桜姫保保ゑの城城切そい場ら水飛下物ら信元と尾別石ら既ら〻郷山南年元康又後別へ従

永禄二年 己未

一二月十二日信玄甲府を立て川中嶋に陣して清地
素法条三月中旬謙信も同所へ出張四月二日まで
對陣○六月中旬信玄信州松本に旗を立ぬ隊
をもつて飛弾へ兵入出して七月末甲府へ帰る○九
月初信玄再ひ兵を発し西上州の毛作をとり捨十月
末帰陣

△又同月謙信越中へ出張加賀能登二三ヶ国の士を和
睦し六月帰陣○八月上州平井へ出て関八州へ回
文して謙信家部より迎濃度をもつて招き語
に居まらんしと後士の下に者を寄す一二古河
の公方二三作舎の千葉二三小田二人ハ小条方

ハ謙信小田を仕一時に攻戦して退二番目の貫返
て後に度々継相作舎へハ押へを並作舎の家
老原が館頃の城を攻る附に追して謙信ハ名
八千余騎を前にして防引返

△元康の長男三郎別に生る母ハつきやま元康又
是濃に似○今川義元妹度長持をして尾州
大高の城と称し始めて信長出城して元れ
を攻大高根あつし元康軍を壊粮を城中に
ならぶ故その歳城なかくれとさんへぎ
あるりとりて○元康出陣し寺部梅坪
広瀬挙母伊保等の城を攻て取り所の地城

懲く有功の者に賞を賜ふ又張州に注

永祿二年 庚申

一 四月沖邦伝の礼沙門林光寺元能頭を
もりて大昭大夫に伝一箱の根の紙と鳴子を
陸奥守に伝元能の大江の廣元が来るを
と称して大昭大夫陸奥守廣元が例
と義元に

△ 六月十七日今川義元四万余の軍を率て三州に
出る元康千余人を率て先陽に進
む十八日元康尾州丸根の城を攻昌城を屠
城守作左衛門大学を斬十九日義元元康と

て大高の城をとりこむ日代長と義元尾
州鳴海に引き戦ひ伝長が為に敗北
ト敗る伝元義元の死を大高城に聞く元康
月のおを焼て先に引て三州に退く日三州に
大樹寺に陣を取一日長清ケ丸の城代山田彦
右衛門尾州に引り義元の墓に向て切て死す
○十二日元康長清の城に入る重ら拳母梅津の
城を攻る廣瀬の城を王宅右衛門と鈴建城
にて敗る元康ら先鋒碓嶋を元康自ら城
に入て敵軍を敗を大高与八郎
城と浅と合て三河法施に平て死を

そ坂元康房が当領の城とゆそい人家と焼
て城ろ付て徹田作せ乃兵多りてこれと始め元
康大久保彦八郎忠利と法師拒うて兵とりこく
器濃りへ○水野下野守忠元と尾州不和にて
そうゝ高屋軍れ出つ大系右道左濃つ矢田川十
郎水野忠元家大久保七郎右濃つ日比左濃つ高
木九郎太郎と会軍切あり○又水野下野守と
三州刈屋の城行りて親の仇の名と十八町と
いふ所ろ士成い親族成い朋友なり故に本
郷力ともげまして敵と撃事右なろう元
康の兵伏浦八千郎大久保又郎右濃つ日七郎右濃

つ石川彦八郎太力と尾しり切と成りそよ○右部
奉母本城と世め又毛沢の名屋根の城と成元
柳原孫平兵衛人り先ゝ引て進ゝ元康柳原
が早ゝ進ゝそうとかりて名と鳥帽と改○西尾
の城と成る牧野これ引ろ○東城城と世む城
も右良義忠うゝ海てこれとふゝぐゝ
ひて向の城と三処り線み牧の城りい本多忠
勝右廣名稲葉右近はは笠原三九郎清茂
は桑井右近右近とし世ゝ元康長濃へ
還○九月十三日東城の兵と本多忠勝右廣
城縄ひて元康ひ忠勝と成り右良

が活篇永正九年と刊て首級とはこれ功成賞
して篇永の事他とおなじ
△遊清閑の茶副紙作の前職の親柳池国
長い尾と称とし○長尾景虎と上杉と改称
任と称し国家へ出張し資糧と絶て上杉田
原信濃守の信濃と攻義し国家の信士攻
らひ九百余人殺しそこ小田原へ攻入城門蓮池
の迄まで押法城院し花し御所し酒作通会
鶴岡へ参詣関東康が不礼なると怒て扇と
頭とうち叩田憑城し海て深敵とこれとり関
東武士皆酒作と肖く輝虎備代の武士を

百人千と云て関西と渡して上列平打し勝
小笠原は他の民太尊元もありるわ多い武
士も討死して平井し逗留して八月まし留住
へ帰り
△信玄小田原攻出陣源又郎義氏は二月
十六日甲府と立て十九日し小田原城へ信玄二
月十二日甲府と発し第峠陣し陣取○曲関北
北条と相模国小田原城へ入信濃海又義会義氏出陣
雑云三月今川氏真三郎と義会関付も
永禄四年辛酉
一三月浅井大文長政子銀前号義長上洛義

輝と号して彩色と無て義経の法師と名乗り義
輝深くて二月出家して法名を慶光と改め上洛同
月晦日義輝威徳院と称し給へり其際
饗宴後藤某おわりて義長の嘉賞わるく松
永弾正久秀ひろく異心を毒とてくめて
教を長者に説き老たりて年十四一族の子義
慶と号して継嗣とす松永弾正と称す
△二月初旬より甲州へ使札を送り上洛の
協議を乞へ法云進発なるべしと称する法云許
法
△三月初旬伝聞信玄薙髪して上洛若輩

と称し久と改め上杉謙山と号して人数五千
を率して西の海二万騎を率して六十一歳
入洛義輝に謁し関東管領職を請又輝の字
を受て輝虎と号す○上杉憲政并古河三郎
関東武士とうとうひ小田原城内へ押籠り居
古河小金戸部小金戸忠へ出行り云とん
働入房州里見に人数と二万余一万い三万
と大勢として小金の千葉と押へ一万い三万
北条と板倉と上杉と金沢城を攻て小泉
家絶滅せん也もとふらひ小泉一族
随也とて再三法云と軍談上法云家老

高坂彈正に命じて越後の國人坂戸の城
退散する

△九月十日川中島合戰徳川と信玄迫代陣取
やうの勝負なりしを以て信玄川中島に殿し
仁科高坂海野三人信州先方のものと敵を迎
わるゆへなり○六月信州信玄の士真田幸村井伯耆
義也○二月信玄の士真田幸村井伯耆
義合義明の婿なり

△元康水野忠分と又若ゝ頃より親しき者
石川伯耆守數正なる事水野忠分と合戰
多肥後守忠正村庄左衛門松井右近等又徳川合

△也○元康廣瀬の城伊保の城と襲○元康重
平大炊助將京と戰て板倉彈正と三河中島
のゝ合戰てうゝむ板倉不叶器の城にて
元康自分器とゝして器の城とせむ板倉城とも

△てゝ東三河に聞る大炊助が軍功と賞して中島
の城と賜は地東條の吉良義昭と戰とんく
なり佛とうゝびひて佛て○元康ゝ信長和睦

○四月十六日東條の吉良義昭ゝ信中島とゆそ
松平大炊助將京遣て殺ゝ設伊ゞれたり多略
京都ゝ遣て長良ゝ到く戰死同所をとゝりの
二十余人なり○此年元康長沢の城と攻落る

急ぎ義小原殿を島守殿と獲こう

永禄八年 壬戌

一 春毛利元就と豊後の大友と合戦を義輝こう
豊後院門跡乃澄と元就へつうつ〻と我が方を
源頭奥と大友へ巻〻和睦せ〻むと元就の嫡孫
輝元と大友の聟とすへ〻と約して戦と止

△ 上杉松山の城と武田小泉五郎四方六千余の兵〻
て攻落て城守い上杉憲政子女貞子を捕
仮法師丸と悔怨て昌小泉殿の山乃根の城
一日一夜に攻落し殺候へ

△ 信玄安芸国坂彈正忠殿へ使者て殺候の事へ

東乃十八里へて豊嶋と〇信玄と義信と川中島
合戦則陣の論〻こうして文子石和

△ 三月八幡牛久保の城と小坂井東忠〻て物〻元康
の兵力つうて元康千余人と牽来りてこれと
もつて敵対れ共多勝りのりて八幡の人数と嫡
〇九月九日二連寺牛久保伯耆八幡乃兵と東坂
〻元康の元弾酒井右衛門尉と決利と
共に屬もて兵乃者数十騎敵勝〻て競寄
分御島寺義十度地〻て三度逢と合元康
兵〻引く自分敵と伐取其首乃板倉弾正と
巡番伯耆浙〻く方勢〻て〻〻伯耆八幡

の城を一時に攻落す○義川甲斐守は吉良義
昭と共に籠城して元康に服せず酒井雅楽頭忠親
廻て義川を入○忠親西尾の城を警し牧野城に
もそそぎ給へれば西尾乃城に雅楽頭に賜
○東条の城を攻吉良義昭が弟将城を出て戦
井伯四郎左衛門忠政これを討敗て敵利を失ふ義
昭つゐに降を○松井左近忠次佐野周防守と共に命じて
西郡の城を攻忠次諜者を遣して城を内より
落る長照と捨て久松佐渡守を西郡
の城に授し心今川氏に忠照が信しかるを憂
石川伯耆守数正これを計て長照と以元康の

子長満三郎信康に易る故に信康をしめて三
州に入て手柄を顕はす吉田の城に籠る
永禄六年癸亥
一正月安房の里見義弘武列岩槨の吉田三楽斎
小弟氏康弟に氏政と武列国府台
にて会戦して里見小敗
△二月十二日信玄甲斐を攻給ふ
城守小幡尾張書と戦ひ上列岡岑を攻給ふ
敵守上紀州○同月廿六日信玄上杉松枝の城を攻て安房
中郡に出て敵を破て子右近い早く降を
し安中の城を攻て○信玄上列蓑輪の城

と云ふ摂西上列七郡と治安元年改称す

○山城武田勝軍十八家にて初陣○勝頼伝大ふ

称号は御へ初て移る○正月七日遠州犬居福

寺の律僧武田信虎出家日上洛のゝち甲府へ来て

出る信玄帰俗ゝ日向源義経と称て壱列へ遊

を信虎同十九日駿州と義元今川氏を引ゐの

元図曹洞宗の寺ゝ止む○十二月信玄勇士高田

隼人佐の病死○長坂釣閑斎八郎信倫

△毛利元就が雲陽国の城と攻落を長子隆元

家を元春隆景毛とゝろさんと云元就を死

とゝろぶて安芸へ遊ゝ国へ弘治二年ゝ

今年まゝく七年計対陣して長子隆元

ゝ終もる而安芸国陽毛門倫中倫任国横伯春

が雲隠岐石見合て十ケ国ゝり十列大守と称

もこれゝり心ゝ陸の大友と合戦し又四方へ

も出張し又備前の宇喜田直家ゝ年ゝ合

戦も元就ハ隠老ゝゝゆへ吉川元春小早川隆景

とゝして出陣せしむ直家ハ元来赤松ゝ家人なり

赤松ゝ家臣浦上某家臣ハ播磨国佐伯

常と大隼人直家又浦上と共ゝて主地と押領も

△元康岡崎ゝ義ゝて山中ゝ陣を取一日の勢年寄

へ治ゝ年多平八十六家先ゝ遊ゝ徳と合も

相国の牧示次郎為り牛窟牧牧ゝ老長稲垣平
右衛門ちちちひゝて酒井右衛門石川日向守国
て路案故ゝ牧牧右衛門と右衛門が婿とすし
孫ゝ元康四気又布ゞの四方ゝ獣雑猟士候
武浄土と墨ゝくゝ書ゝ右衛門と捨く牛久保
牧牧中右衛門が今廟の指物と先て右衛門ゝ白
熊ゝ葵の丸三つ并ゝ白毫ゝ七ゝの旗ゝ者ゝ
のゝ〇伝也姫と云て岳湖三郎信康ゝ嫁ゝん
ゝと約ゝ〇吉田の会と小坂井ゝて卿ゝ渡ゝ
義姫信中悪敬と陸と合て元康会開ゝ疑れ
て敵競ゝ〇む松山久内ゝ云れと銃ゝて討ゝ

平岩七ゝ助親吉佐渡守師と師て本敵退て敗
中ゝ〇ゝ拾元康と家康と改〇十月一向宗ゝ
造乱と起て家康四ゝ世の士賊法ゝ云て野
寺作海土呂計海ゝ授てゝれゝ敵て右衛義佐
ゝ敵と為ゝ〇ゝ海ゝ小東条の敗ゝ入てゝれゝ俗者
川甲斐守と重ゝて右衛ゝ云て松平監物
家次美川と志と通ゝ掘井ゝて鞍酒井右監
為て三河工牧ゝてゝ久賊法と海と張
く弥遠藤と海ゝ小右監ゝ家康一の老長為り
潜ゝて云て京諸別の人質と捨ゝ京も
可捨と右監云て者ゝ者ゝ但ゝ

ら筆ら分の質と捨ていに来何るもん
実いよするるもの〜〜ら退席ててを氣
色と見元康自分迄ら〜れいる弁長右衛門大
久保七郎右衛門石川内記（後改伯耆守）平岩七之助と
和七百余人我先と進む拒塞い山路へかゝるよ
る敵ほの人数退元康い拒塞ら上野の城へ渡て酒
井与九郎忠次九郎忠川金右衛門芝山小兵衛
と捕て拒拒塞が沼と云ふ所小又郎（後改藤）と継
しむ
拒塞の属ちら者又多し松平七郎大草ようして
敗軍作法のちと鑿（ソウ）攻が鄙と後て退ら大久保

が民族（カミ）上和田ら拠てこれとちら城数度これと
かそひせむ○十一月九日汁海の賊上和田と鑿
てあひそそらら安康岩海ちり出くこれと信城（タシロ）つ
ねら敬して退平岩七之助大久保七郎右衛門二村
左右衛門富田平太郎ら賊と後と合松平金助ほて
○上和田の兵と針海の敵と伊田ちりとく弾ら

永禄七年甲子

一濃田信長ら美濃国と攻る林右衛門龍興ら一族と平
て尾刑清則ら美濃故阜の城ら籠めら
△武田信玄老山縣三郎兵衛一ら攻動（ハタラ）く入能
弾守国の仕ら信ら後年て○年利勝

射死去年三十一歳長流病死○信玄子義信
と称ふ徹て○雪隠と山と号して
△正月二日賊と小豆坂にて〻〻〻〻賊ヶ谷家康
の為疆と中ゟ家康賊て注ゟ敵軍ゟ入てこれ
と攻賊法敗れ中ゟ水野藤十郎忠重石川彩十
郎と討死水野忠大郎忠重伝大見藤六郎と討○正月十
一日土呂城浜松寺の城と上和田の兵と合戦ゟ大
久保忠右衛門忠勝矢ゟ中く眼と傷ゟ大久保七
郎右衛門忠世被剣家康鉄炮ゟ中ゟ御ゟ肌
膚と不侵内荷富田藤次郎石川
十郎右衛門内蔵ゟ（昭男也）と討敗て○二月十三日家康兵と

繊と賊ゟ石川又四郎布施孫右衛門被剣根来寺
内死て○作海の城長浜と攻むとて家康ゟ為
ゟく敗ゟ小日向城ゟ敗れ○二月九日上和田の浄瑠璃院ゟ
賊法敗れ○二月九日上和田の浄瑠璃院ゟ
移り中と賊て〻〻〻〻賊法の罪と為む
石川日向守忠成土呂寺内ゟ出く教令と出賊法
日向守ゟ言と中て〻〻と投て服て小日家康ゟ為
出家と攻吉良義昭城と棄て〻〻松井左近忠
次と〻て〻これゟ拠し松平監物忠罪死亡
川甲斐守松平七郎と遂○今年家康波紫郡一
の宮乃城と攻死中ゟ一日明て城と〻〻〻

む因て今川氏より強盜の兵二百と引て右同日玄
て兵と三ヶ分八千ばかりの城と攻八千ばか
りの城を攻落し牛久保城を押へ（大沼六郎田代彦兵衛尉の元同日止宿）
徳川方武千八氏真雜兵也扨家康は酒井左衛
門尉忠次を牧野出羽守右の元三ヶ牛窪と申す所へ
向陽寺の下知八石川日向守一人ゟ家とちへしと
家康は最後ゟ兵二千と將て信虎八千の城と
鄰りたるを一の城と通り城巷兵とは押へ
て城へ入る兵百助まつ四百の兵にて城ゟ
なりと云て家康百助と連て門沢
開発代て出二千四百と國侍ゟ敵中と働ゟ

牛窪退樹原集物三町計の所ゟ人と付く前
三ツ所ゟ兵百人右若菜左右ゟ敵中の兵
い所動く〳〵ゟ家ゟ物名物者と尋ゟ
て敵逃れ出るして強て敵を家康二千
四百の兵ゟ八千の強兵を攻むとする
とみて敵ゟ家ゟ右の耐伯春ゟ右ゟ先進て
関勢と發して逃れ敵退場て石川日向ゟ
と石散ゟ伯是野ゟ敵を攻て敵
押撫退ゟ八千の兵と右へゟ孫の氏
兵を百二千の兵をわひたゟ人数扱ゟ人扱
よい信云ゟ一の城戸を列金川の城作

あり○京三條の士牧田の城守茂沢彩人帝四条
の戸田牧牧系西の白井なり出羽国限屋敷作者
城後主○慶長武勇とはなく武田信玄信州伊
奈の士下条弾正と命し後号と為る時曙の
二字を冠列江南の門下の法と二字の後と同
語云号の邪まる時よりなく早けきびはよりの城
て悪しと○遠州引佐の城守飯尾豊前の
実城攻の時今川の陣より出るの
慮と謂て故に御て病と称し去和引佐
の城彩居白浜城と為る滅譲会と敗決を今
川の長を綱と見なく大に驚る明早朝
とおして城を弱と氏長の親なるをわるるを作て陣列
に置る○戸田毋治号 後隠松年 久保号 二連をかして賜を
○今川領吉田の敵に向て三重に分城を拵る稽
原八郎三郎い武見寺の城とする小笠原新九郎い
糟塚の城を守る戸田毋治い二連寺の城をもち
○吉田乃城を下地に下して親に年多年八郎に賜
七条城長谷稽厳石見守こ徒と合て城を攻る
鉄炮を撃るせるるくしの敵を撃りて前に出る代
付るまくに引つけて敵を勝下と打捨まるるく
思う前と右力まくまる直代西九に命を意
退て城度い責麦の飯を食し病毒を

て死○又月十三日戸田にて度々宋他を加賜吉田
の城伊豆に於て詳かなり○六月今川の部将小原肥前
ちる吉田乃城をさして駿州に還る○同九月二日吉
田の城酒井左衛門尉に賜

永禄八年乙丑

一 又月将軍源義輝武威衰へて三好松永が逆威を
振ふを悪て密に誅罰のことを議せらる由風聞す
る○同月十九日三好松永大丈義継并に松永弾
正少弼久通兵を率ひて御所を囲む
衛の士戦死す義輝も自ら防戦ひ塔尾
て火をかけ害を嫡て義輝死去年三十

歳又鹿苑院も同没して義輝の弟二人あり一人は公家
良一乗院門跡覚慶と云一人は鹿苑寺周暠
と云周暠をば三好松永使を遣し招て出京の
路にて討殺せり覚慶は早々さりて江州山
を除て若狭の国へ赴き後に義昭と改
頼みて還俗して義昭と号す尊氏より此義輝迄
年入洛ありしより今年まで或は文字或は入元
当に継して将軍十三代今て二百三十一年なり
△六月法雲越中へ出張越中一揆余の並推名泰種従
条○六月法雲越後の花城家鎌進とまります
長坂源五郎がため讒死○十二月十三日織田信長

書ハ武田勝頼ハ信州高遠ヘ退散○信濃源八と
古屋越後守所領信濃国
△此年家康寺部の城を攻給ふ日向守城をもつて
てのゑこれを奪地と為酒井右衛門尉忠次ハ
くつ地の城よりよせて攻る酒井右衛門尉忠次ハ多勢
攻る家康寺部をもつてこれを攻〳〵むる敵上野の
城を奪ふ後刑部ハ〳〵多勢ハ寄る日
右近丞大夫二郎三郎左衛門二列の法剣を授ける
なり と称ス

永禄九年 丙寅

一 正月十三日信玄大僧正の綸旨下る山門明王院

指条○六月十四日武田信虎京都より信玄へ
書状ハ公方へ礼謝の武状来る○七月上旬和田の
城攻信玄ハ時ハ信玄ハ是ハ大将横田加賀守ハ籠城
浜地と云打立信玄ハ軍ハ○初の八月廿日
信玄早速と数〳〵信の八月下旬ハ和田ハ
田ハ利ハ攻働ス○信ハ九月八日ハ陽ハ信
別物地海城代と為ス
△二月十日家康ハ遠州ハ高遠ハ攻ハ
ハ安部ハ信州城を攻ハ尾張ハ家康ハ
内意有ハ去年十二月九日氏真ハ
遠ハ〳〵ハ信州ハ攻ハ

きて志と共康より通して切り寄進と賜てこれ
と励て〇十二月九日安康叙爵同日三位ゆきより
位を

永禄十年　丁卯

一
八月信玄義元嫡子義弼を三河国通
義元と戦んとて義元駿府を立て其後へ進行武
田義信と新たに三国同盟をとれども
けりくるを以て義元出て合戦古渡に義元敗
績し信玄をうつ
△
六月信玄甲中へ出張六月廿四日川中島へ発向越後
より援国の地と撰取と纂八月初旬孫〇十月信玄

子義信自宮今川氏真怒て武田へいとの条安へ
頼強力と共国ゝり甲信へ信と出す通信玄れ沢
ゆて越後ゝり姫と運用〇十一月武田勝頼信玄
信玄ゝ長男武田勝と名乗
〇月月廿日信玄娘（年七ツ）と信長子信忠へ婚姻の
約諾あり
△
九月九日氏康甲州へ援兵と元和条武田互誓と
八て信玄上州厩橋の城に居と切り出富町と設
突せ〜む
△
六月廿七日氏康子信康徳川信也娘と婚〇三
州寺社の祈願日向寺同男豊前入家これ家

地と為て云れて居給れたりくちるると為す
しく語別したてるか

永禄十一年　戊辰

一二月右馬頭源義栄征夷大将軍に任ぜらる

△七月義昭義栄より西川参水右衛門尉中
勢大和清信と使を遣し美濃岐阜へ遣し織田
信長へ三好退治と勧まる信長許諾し不破河内
右馬頭并伯耆守を以て義昭と副て義昭を
岐阜へ送る八月信長江州へ出張し侵右に作す
兼禎より三好退治のことを信長に為て兼禎同心せしを九
月信長為と率て兼禎が郎内兼俱の城和田乃

城等を攻落して安庵加賀守松平勘四郎信一等
俱と共に兼禎及び子義弼観音寺城を
て没落して江州に帰る義昭岐阜に
つて江州寺山に上る同月京都に入る将軍源義栄
腫物と病て卒す○同月廿八日義昭信長入洛
義昭の清水寺に居り信長い東福寺に居る
○十月義昭信長に命じ三好一族を攻
平ノ、松永弾正久秀以下三好方悉降参する
者多し畿内平伯義昭六条本圀寺に信長信
長の清水寺にあり○同月十八日義昭征夷大将
軍に任ず義栄摂津中島に引退し法四位下に

敵も

△二月十一日安康右京大夫より使を○三月七日安康
鎌倉の城と接(ツギ)て〳〵多屠(ホフリ)り敷て大久保左衛門
平井甚又郎死て○義康宇津山の城とせしを
守為小原彦右衛門城とて〳〵去時より小原彦右衛門
城中より煙(ウスル)なのなん軍城中より入富士息の義
も彼れ其くの義ゝ言る

△十二月六日伝玄軍と義〳〵甲州下山通りと七日
より押回十二日弦刈奥の津へ出張今川氏真先鋒
い薄田山奥津に陣より伯人氏長い清見寺より深
も伝玄右の山より右所とつけ法華下るゝ

深沢城山と称八幡平へ出る氏真い義と有中
へ引入伝玄一二の先陣い上野原へ乗入右勝俗崎
の岩山と右より見く材際ちの門すて焼入敗氏
長い所尾の長云ち人極伝玄法有の鉄入人とへく
黒沼と右寄入右馬頭氏真大ゆ慰て一揆ふへ鉄と
備掛の氏長所尾と出て源俗山流と源を刈紙川
へ注城ち朋江ふ伯中ちゆ岩と部て出ゆ二千汐
山城とゝ〳〵伝玄い法有ゆ深て

△十二月十二日家康左を刈井の岩三士へ書状と(ハガキ)
を者法次郎右衛門を者登之助北条三郎大夫
郷等をちんるゝと伯て○小笠原彩九郎ゆ命

して之を刈る伏海の小豆原与八郎と云て其服
きゝむ○寛康三刈屋源兵衛と殺して大津の戸田
三郎右衛門源兵衛の法花堂に籠り城を構へ
源松浦輪の法花寺に籠り孫し伝兵衛（山岳の名称 松村与三郎）
と細川城と戦ふ弟伝兵小田原の援兵清
勇へ攻び大井川と焼て之を刈と戦ふ
と河内兵衛と山城に勅して軍士をつゝり井の
若口の地を抜て城と拵芳沼彩八郎宣盛（博多城 氏の）
書を城井の若三士と郷存とする伝ふ
刑部の城とめく○廿七日熊川と囲む先深七日
酒井左衛門尉石川伯耆守松平右近多井兵右衛

門大久保七郎右衛門大沢源次郎右衛門石川日向
守ゆり寛康に仕多年八郎原小平太（上総人）と
前源与て天王山と立費て城と用下ゆ
高く迫合西宿にて敵度合額ゆ○廿八日付
城と隠川の西方に拵つ
△十月廿日別軍の城を天肥交内右衛門と
して秋山伯耆守と甲州へ遣て○今年甲斐
にて布施兄弟と訴訟孫右衛門喧嘩

永禄十二年己巳

一正月伝兵衛老秋山伯耆守晴近（武田信玄）信州下伊
奈の兵三千余と将て之を刈月付の町屋焼

家臣酒井左衛門尉忠次を別に召出し
来る十四日の家康と記して勾坂六郎
て家康と行くそよ六郎左衛門尉忠次
の城戸口に出て十九歩つゝ代教し樹川へ
秋山の所行と家康へ所小田原
と信玄へ遣
七度被使ひ被来り信玄申命と
附与山器に上り半 不能申説り此内に秋山
伯耆守以下を信州
方に義を表出陳因義を
秋山下伊奈高原
拓植

方設付義居条肝要ひろて
四月八日 信玄
遠川原
拓植も秋山見付と不立退家康より拓植を
とゝ云へ不意家康もれと謀て云伯耆と
信玄の下と元亨八尾列と代治を列ハ信玄
秋をしゝ為をしゝ酒井左衛門尉と家
川ずて曲をへしと伯耆もこれ家をしゝ
左衛門尉次と伯耆八大膳郎原小平太康
改と副秋山が為ゝと捕へて法ゝを列士の
質成清左晴盛と云樹川を西表まで石遠拓

下人共ハ日々ニ二候へ共ハ晴間と申四五
十人ハ引て二候へ共越後表寛永三巳ノ年鶴千
代君と巡見して鮭川へ御引渡の砂ハ
へハ大天龍川ハ天龍丹波ハ市野村森久野
袋井の辺ハ三河ハ岩崎ハ藤川の通路不絶故
ハ其国々ハ国々ハ百姓ハ三河領の城
ハ三河ハ松平周防守ハ日向ハ伊東
義日向守義ハ毛利藤兵衛ハ紀州ハ徳川
家松平一学ハ勾坂一学ハ上村右の侍士の人数と
百姓ハ信濃ハ二河ハ吉田ハ岩槻ハ奥山大膳ハ
山城ハ天竺ハ天内右馬ハ伊勢ハ志摩ハ

ハ信州ハ徳川城攻の軍と分て水戸ハ紀
州ハ家康の故家聞と制て討死ハ紀州ハ
て二度同天王山ハ天王寺ハ安家の方ハ家康を列一編の
附ハ信ハ越前ハ鶴○正月家康ハ伊の方ハ
彩宮ハ海路す○同十七日家康ハ京ハ紀州の源天
王山ハ向○廿日ハ川ハ使ハ公儀ハ公儀ハ
ハ同弾正ハ家女ハ和泉ハ氏真ハ西ハ子等
ハ戦ハ家康ハ方ハ去年久世三
郎右衛門ハ徳川家康ハ鶴○同廿日ハ
ハ弾正ハ家女ハ又ハ家康ハ内
通せり強れハ志ハ

百と称　んとなりよ　○十一日久世八右衛門と
変して久世三郎右衛門と
馬場喜中より入て安康士卒と雖
て三郎右衛門と教ひ渡ると教一揮西家母と
い迎教て今秋徳川より見と不知ものして家
康と繋むとする事と悔て伏兵と役大沢賀又
郎右衛門馬康を大久保七郎右衛門の世松井右近太
沢甲斐守安康を水野勘兵衛忠元を小笠
して鞭ち○十二日秋葉より今より新城
より鞭ひ敵城中より放火松平右近ゟ士景田行右衛門
石川彦兵衛忠康の屬ちて兵右の間と平場ちて

と称ちて大久保沢右衛門と松井右近と
衛門大岩七十郎と水野右郎他門根野孫
付孫原沢右衛門小笠原武兵衛忠元と
郎四郎右衛門小敵と称て首級と挙ること
安康兵と月付ゟ士卒とてくく四
方の付城とちもしむ河田村の付城を三列の兵
吏として守ること山岸町の付城八他平出兵
山安三方の兵ゟ西ゟしむ久世三郎右衛門久
世とちり小笠原ちち八郎右衛門と戦山とちる○三月
四日安康又兵と鮎川ゟ出て○五日鮎川の兵城
と出て鞭ち兵ゟ士費沢三九郎右衛門と携ちて

松下加兵衛尉多二郎中山兵部丞首級を獲
る所の士卒二十余人を斬殺し敵城中に
入今川に属する所の兵を敗北して無隙の遠江
所を康大沢媛又郎右衛門小平太を長兵
衛尉に命じて豊田人を遣して攻つる無隙遠
の敵皆去大沢左つ作を別所城に拠て
これを守る康は敵軍を見る苦沢城郎右衛門
を遣豊田に命じて攻る○四月十二日大沢郎右
衛尉を同家地に賜○又月六日民部大輔氏
無隙浦に移り今川氏の別小田原を遣
石川日向守康成に命じて無川の城を守る康

康は金谷大岩大井川を巡見して武田信山城三
郎兵衛の家康の兵を見物と変じて
ありしかれども武田と怨をもつぶ○六月家康
家別天方の城を攻る守将山内山城守信
同伯耆の城を攻てこれを
率ひて憑くこれを撥城を山内大和守の士
△四月三郎の餘党東郡へ逃入
△四月十日信長勝別へ出張八月又郡へ十月郡
職して岡司小笠原奥数を恩賞を信長次男信
雄に嫁して婿と為す信雄の奥数強を宗安
出て勝別平尚○信長波阜より上洛二条の

御所と遷りて義昭を居しむ又月任長彼皐
月御所を集中庵右京亮秀吉と京都より面〻義昭
と守しむ秀吉は尾州産知郡中村の微賤の
人なり初め主刑の松下之綱に仕へ永禄元年
より任長に獨り敷度軍功拔群(バツグン)なり登庸(トウヨウ)せらる
当家の始

△十月任長関東出陣

信長公集未書奏卷二十